

はじめに

私たち埼玉石心会病院外科は、開院以来地域の住民の方々をはじめとして多くの医療関係者のご指導、ご信頼の下、地域医療に貢献してまいりました。現在 10 人の外科医と石心会メディカルスタッフが一致協力し、一般・消化器外科疾患ならびに乳腺・内分泌外科疾患の診療を行っています。

毎週 12～15 件前後の定時手術と、数件の緊急手術を行い、年間手術件数は 800 例以上に及びます。また夜間・休日も外科当直以外に、外科オンコール体制を敷き、麻酔科の先生をはじめ病院職員の協力のもと緊急手術などに対応しています。

患者さんの診療に当たっては医師、看護師、薬剤師、栄養士、検査技師、理学療法士、地域連携室などのメディカルスタッフ、ならびに病院職員全員が患者さんの診療を担当する医療チームを形成し、個々人が医療のプロとしての矜持を持ち、チーム医療を推進しています。

今後とも我々外科スタッフは、最新の標準治療を提供することをモットーに日々研鑽し、狭山・入間地区を中心とした埼玉西部医療圏の方々の救急医療、地域医療、がん診療、高齢者医療と、地域住民の方々の健康増進、医療教育に貢献してまいりたいと思います。

埼玉石心会病院副院長、外科系診療部長、外科主任部長 堤 謙二

外科部長 清水 喜徳

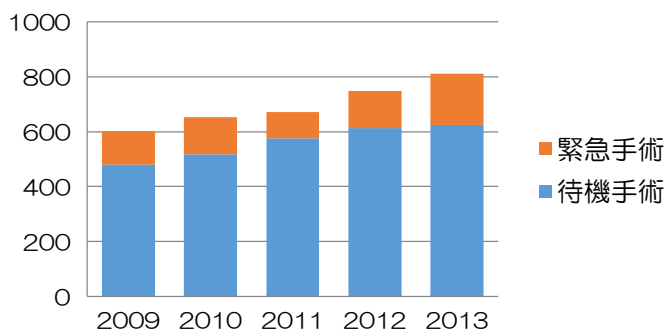
乳腺・内分泌外科部長 児玉 ひとみ

2013 年度の外科診療活動をご報告申し上げます。我々埼玉石心会病院外科の特徴である、救急医療、高齢者医療、消化器悪性腫瘍、内視鏡外科、乳腺・内分泌外科疾患を中心に記載いたしました。最後までご覧いただければ幸いです。

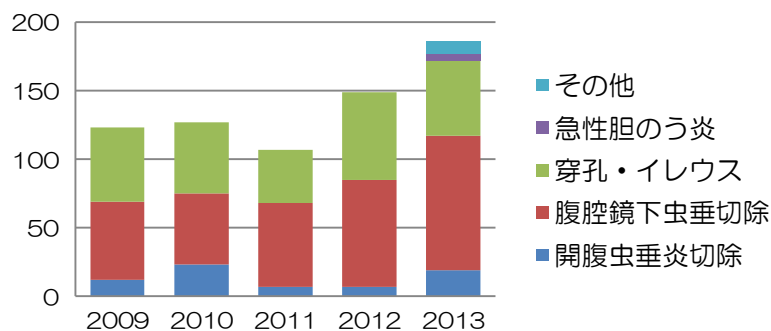
1. 救急医療(図 1,2)

当科では麻酔科の先生方、ならびに外科系各科の先生方との協力体制を構築し、365 日 24 時間緊急手術を行えるオンコール体制を整えています。2013 年度は 813 例中 187 例(対前年比各々+64 例、+38 例)の緊急手術を行いました。内訳は急性虫垂炎 117 例、イレウス・消化管穿孔他 69 例となっています。今後も手術症例数の増加が見込まれます。

全手術症例の推移



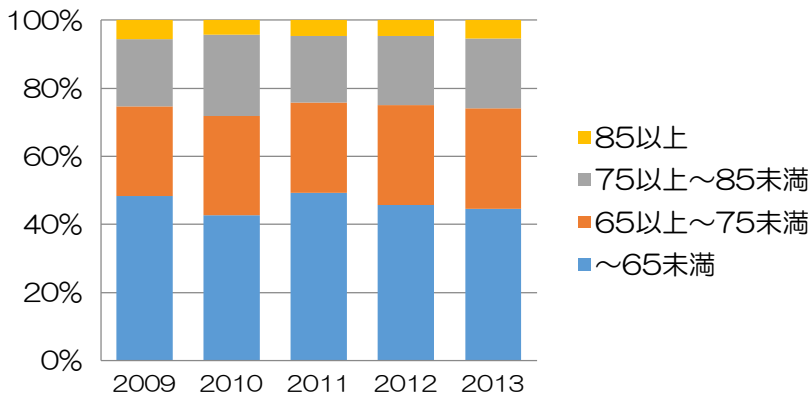
緊急手術症例の内訳



2. 高齢者医療(図 3)

埼玉西部地区医療圏の特徴の一つとして、高齢者の患者さんが多いことがあげられます。高齢者の患者さんは非常に健康な方から様々な合併症を有する方まで一人ひとりさまざまで、年齢のみで治療方針を決定するのは容易ではありません。厳密な術前リスク評価と、患者さんや、ご家族に対する診療に対する十分な説明と同意(インフォームドコンセント)によって、一人ひとり個別に評価する必要があります。時には延命よりも生活の質(QOL=Quality of Life)を優先・重視した治療を選択することもあります。平成 25 年度は 65 歳以上の患者が 813 例中 450 例(55.4%)、また 85 歳以上の超高齢者も 44 例と毎年増加傾向にあります。今後も団塊の世代の高齢化とともに増加していくものと考えています。

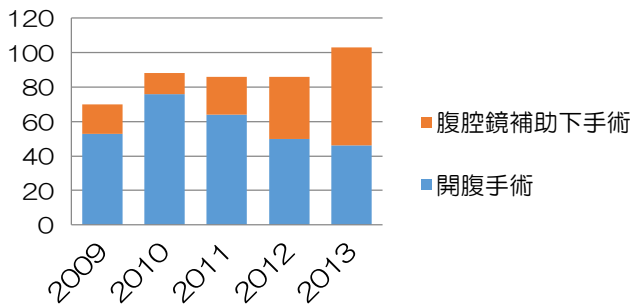
高齢者の手術症例に占める割合の推移



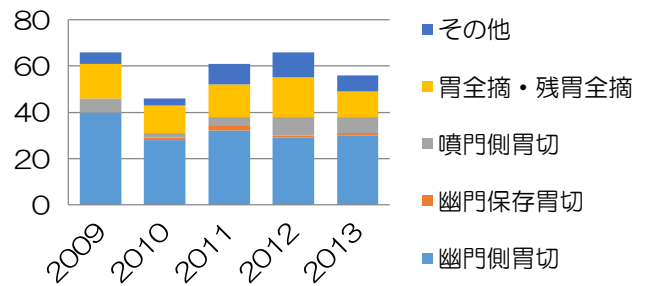
3. 悪性腫瘍手術

埼玉石心会病院は2008年度に埼玉県がん診療指定病院に指定されました。当院では胃がん・大腸がんを中心とした消化器悪性腫瘍、乳腺内分泌領域の悪性腫瘍手術に積極的に取り組んでいます。2013年度は胃がん56例、大腸がん103例、乳がん45例、甲状腺がん11例の手術を行いました。入院診療はクリティカルパスを導入し、医療の安全化、標準化を図っています。医療の質評価の指標として吻合部縫合不全、術後1か月以内の手術死亡(術死)が挙げられますが、2013年度は胃がん手術、結腸がん手術では縫合不全、術死ともにありませんでした。直腸がん手術では縫合不全が1例(1/31、3.2%)ありましたが、術死は認めず、医療の質も担保していると思われま

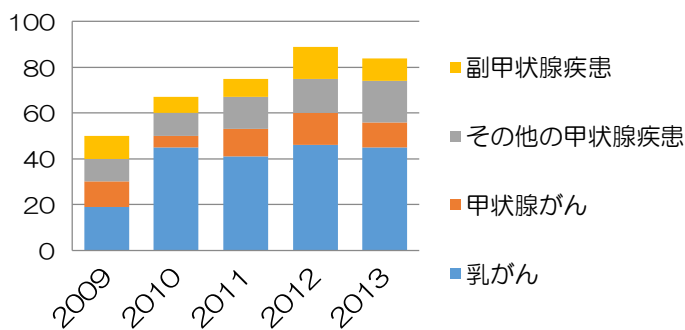
大腸がん手術症例の推移



胃がん手術症例の内訳



乳腺、内分泌外科手術症例数の推移



4. 内視鏡外科(腹腔鏡下)手術

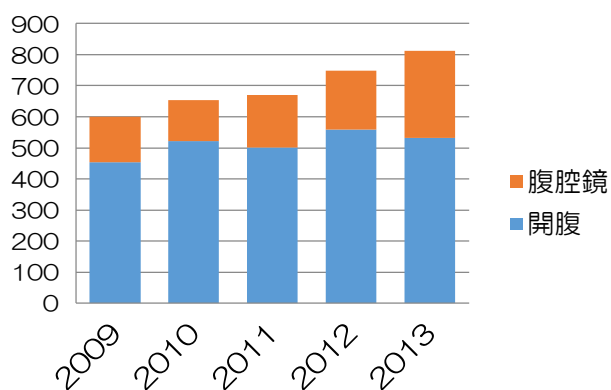
胆石症に対する腹腔鏡手術が世界で初めて施行されて以来 20 年以上が経過し、当科でも胃がん、大腸がん、胆石症、虫垂炎の内視鏡手術を積極的に適用しています。急性虫垂炎と胆石症では、穿孔症例や、腹膜炎症例、急性胆嚢炎などの高難度手術に対しても積極的に適用しています。

2013 年度は 813 例中 281 例、34.6%(前年比+9.1%)に腹腔鏡手術を施行しました。胆石・胆のう炎では 113 例/127 例、89.0%、虫垂炎では 98 例/117 例、83.8%の患者さんに対し腹腔鏡手術を行いました。

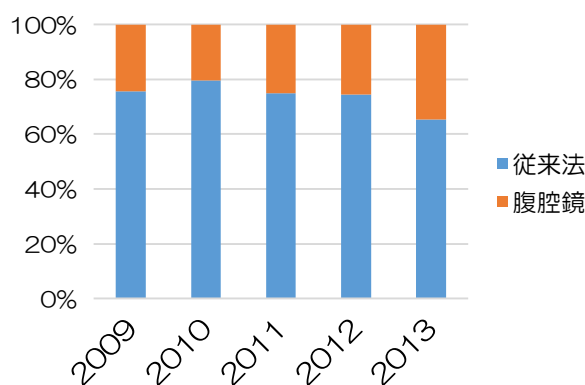
消化器悪性腫瘍手術ではがん診療ガイドラインに準じて腹腔鏡手術の適応を決めています。胃がんでは腹腔鏡手術の適応となる早期がんの患者さんが少ないのですが、2013 年度は 13 例/56 例、23.2%と前年比+10%と増えています。結腸がんでは 40 例/72 例、55.6%に、直腸がんでは 17 例/31 例、54.8%に行い、年々増加傾向となっています。

また 2014 年 1 月より内視鏡技術認定医を有する清水部長が当科に赴任され、今後ますます腹腔鏡下手術の増加が予想されます。

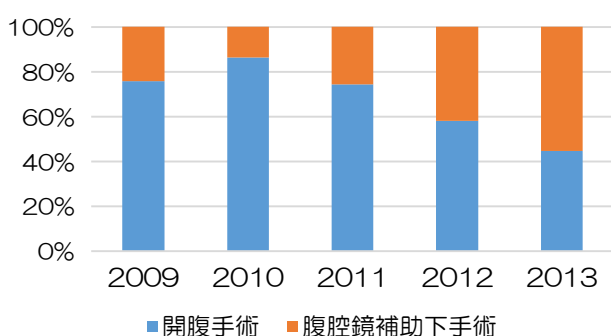
腹腔鏡手術症例の変遷



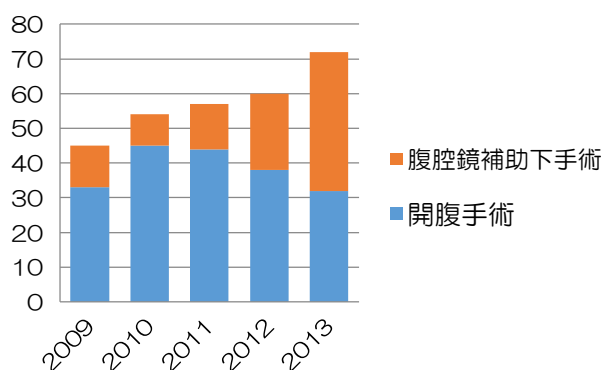
腹腔鏡手術の割合の変遷



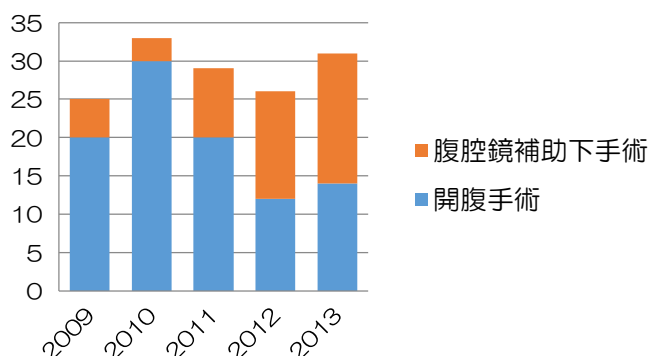
大腸がん腹腔鏡手術の割合の推移



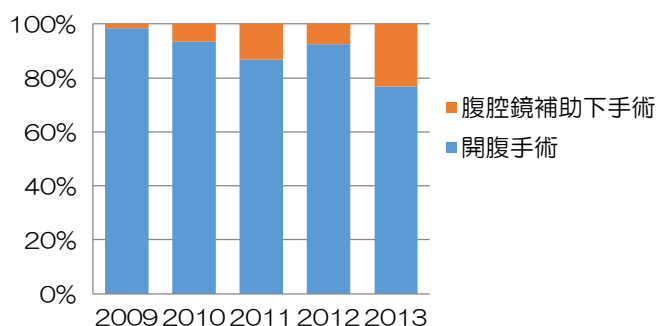
結腸がん手術の推移



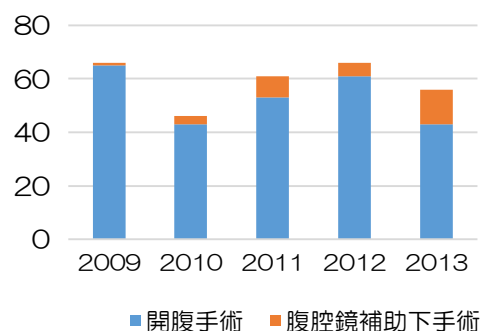
直腸がん手術の推移



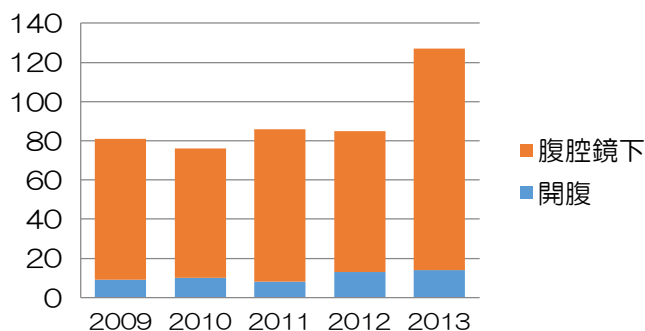
胃がん腹腔鏡手術の割合の推移



胃がん手術症例数の推移



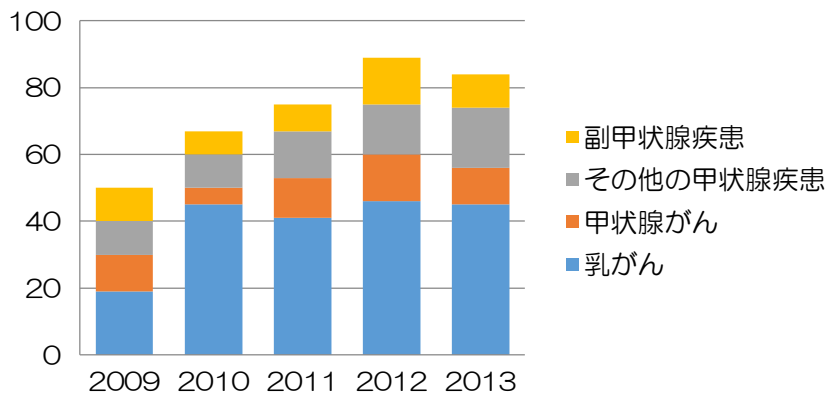
胆石症手術症例の推移



5. 乳腺、内分泌外科疾患

当科は埼玉県では数少ない内分泌外科専門医が在籍し、乳腺疾患、甲状腺疾患、副甲状腺機能疾患を中心とした内分泌疾患の手術を行っています。2013年度は乳がん45例、甲状腺がん11例、甲状腺良性疾患18例、副甲状腺疾患10例の手術を行いました。

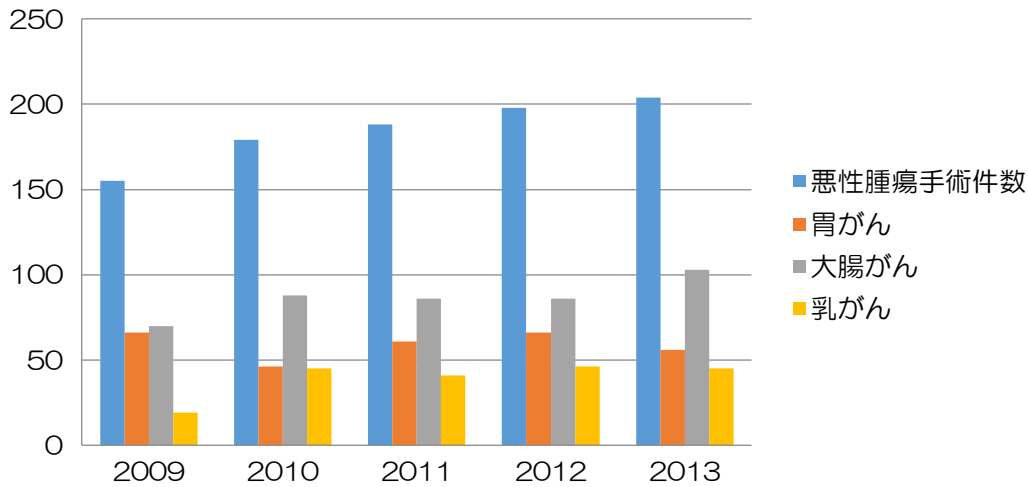
乳腺、内分泌外科手術症例数の推移



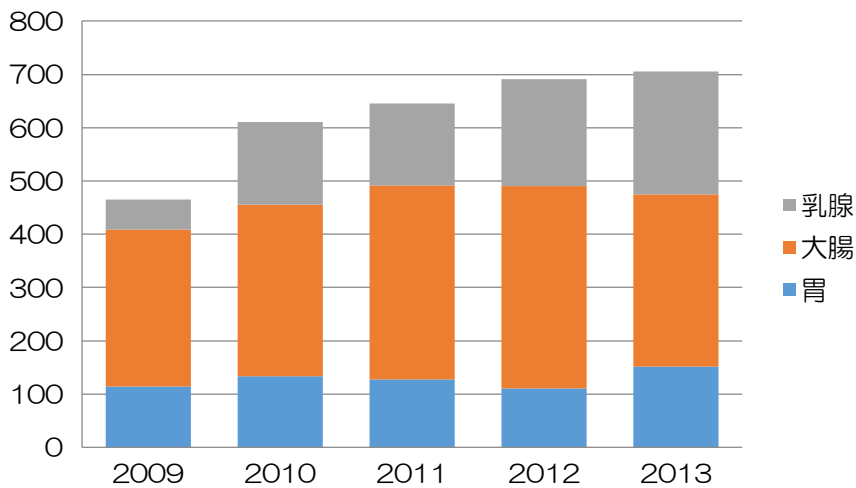
6. がん診療指定病院としての役割

埼玉石心会病院は2008年度より埼玉県がん診療指定病院に指定されています。埼玉県西部地区医療圏ではほかに拠点病院として埼玉医科大学国際医療センターが、県指定病院として防衛医大病院が指定されていますが、民間病院は当院だけとなっています。当科では所謂5大がんの内、胃がん、大腸がん、乳がん、肝臓がんの治療を行っており、最新の診断・手術はもちろんのこと、がん化学療法、緩和ケアと診断から、治療まで一貫したがん診療を行っています。胃がん、大腸がん、乳がんに対する化学療法もエビデンスに基づいた最新の標準治療、あるいは臨床研究的な治療を導入しています。2013年度外来化学療法件数は700件を超え年々増加しています。また健康塾、病診連携セミナー、市民公開講座、キャンサーボードを開催し、地域のがん知識の啓蒙と普及、がん教育に貢献しています。

5大がん（胃・大腸・乳腺）手術症例数の推移



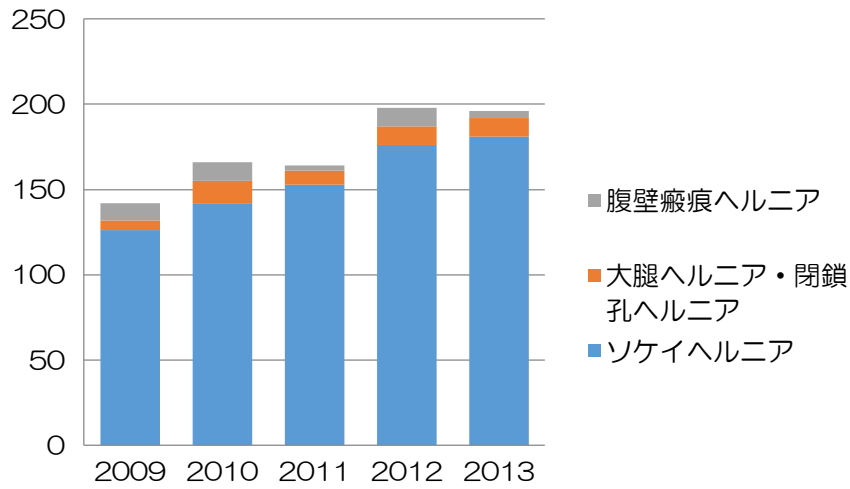
外来化学療法件数の推移



7. その他

一般手術として当院で多いのはソケイヘルニアの手術です。クリティカルパスを用い4日間の入院で年間200例前後の手術を行い、狭山入間地区では最も症例数の多い施設となっています。また切らずに治す内痔核四段階注射療法(ALTA療法(内痔核硬化療法))も導入し治療を行っています。

ヘルニア手術症例数の推移



以上埼玉石心会病院外科の2013年度の活動をご報告申し上げます。

我々埼玉石心会病院外科は病院全体一丸となって、埼玉県西部地区の急性期医療、高齢者医療、がん診療等の地域医療を担っていきたいと思います。今後とも皆様の温かなご支援をいただき、皆様の健康増進に少しでもお役にたてれば大変うれしく思います。

外科 堤 謙二